

令和七年度

中学校入学試験問題

国

語

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
試験開始までの間、この注意事項をよく読んでください。
- 二、この問題冊子は11ページです。
- 三、この問題冊子や解答用紙に印刷が悪くて見にくいところや汚れなどのある場合は、手をあげて監督かんとくの先生に知らせてください。
- 四、答えはすべて別紙の解答用紙に書き、記号で答えられるものは、すべて記号で答えなさい。
答えを文中からぬき出す場合は、「、」「。」「」などの記号も一字分に数えなさい。
- 五、解答用紙の受験番号、氏名を記入する欄らんは用紙の最後にあります。最初に記入しなさい。
- 六、試験終了後は解答用紙のみを提出し、問題冊子はそれぞれ持ち帰ってください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

田口ランディ氏の小説『マアジナル』に、このUFO超心理研究会をモデルにしたのか、「京都大学鞍馬山UFO研究会」なるものが出てくる。それによると彼らは、鞍馬山の頂上でピンク・レディーの「UFO」を踊ると、空飛ぶ円盤が乱舞するほどやって来ることを発見していたらしい。我々が奇声を上げながら将棋を指しているその横で、そんな研究がなされていたとはまったく知らなかった。当時もつと彼らと話をしていたら、悔やまれる。

① これまでUFOと言え、何と言え、良いのか、「このような扱い」で紹介されるのが常だった。しかし、昨今、状況は変わった。

② 2020年の4月27日に米国防総省が、「謎の空中現象」としてUFOのような物体が飛んでいる映像を公開したのである（正確にはすでに流出していた映像を正式に米国防総省が撮影したものと認めた）。今までにもUFOの映像や画像と言われるものはあまた存在したが、Iネス湖のネッシーのような捏造やトリック映像のようなものという疑念が拭えなかった。しかし、米国防総省が正式に認めたのだから、少なくともあのように見える現象がこの世に存在することは間違いないと言ってよい。

「UFOを信じるなんて、非科学的」とか言われたり、僕も当時、「II UFO研究会」って、なんのサークルなん？とか思っていたものだが、今やUFO（正確には、米国防総省はUnidentified Aerial Phenomena, UAPと呼称している）は科学の対象となったのだ。

しかし、未確認飛行物体（UFO）ではなく、未確認空中現象（UAP）と呼称していることから感じられるように、米国防総省も地球外

生命体がUFOに乗って地球に来ていることを積極的に支持しているという訳でもないようである（否定もしていないが）。単にあのように見える現象が、この地球で起こっていることを認めたということである。宇宙人がUFOを操縦しているというのは一つの有力な説明に違いないが、どこかの国が秘密裏で開発している兵器である可能性や、何かの自然現象とか、はたまた宇宙人ではなく地底人の乗り物だ、というような別の説明もあり得よう。

③ しかし、こういった一見これまでの常識では説明できない現象が明らかにするのは、どこか気味が悪い。「科学的」であるためには、科学で証明されたものだけを信じるべきという考え方もあり、たとえば「太陽系から一番近い恒星でも4・2光年。仮に光のスピードで移動しても往復8年以上かかる。地球外生命体の飛来なんて現実的にあり得ない」とか、「UFOが急に進行方向を変えるのは、慣性の法則に反している。映像は絶対に捏造されている」とか、理屈をつけて「宇宙人だけは、何とか勘弁してほしい」というような努力をする人たちが出てくる。④ できるなら「正義の味方」たる科学に、いかがわしきものたちをすべて退治してほしいのだ。

僕自身も宇宙人がいると言われると、どこか不安を掻き立てられる部分は確かにある。研究生活を始めた学生の頃、培養した大腸菌のフラスコを見るたびに、「III 大腸菌」とっては、このフラスコの中が小宇宙だよな。この地球も、もしかしたら神とか宇宙人とかが、彼らにとってフラスコのような小宇宙に生命の素を植えただけなのかもしれない。などと思いつながら、大量の大腸菌を高圧高温の滅菌処理で全滅させていた。僕も知らないうちに、宇宙人にマイクロチップを埋め込まれたりしたら嫌だし、ある日突然、「滅菌」されるのも勘弁してほしい。心の中

で、そう思わないことはない。

しかし、少なくとも現時点で、科学は宇宙人を退治することができない。科学は人類がこれまで得られた知識で作り上げられた体系であるが、これから得られる知見でどんどん発展していく体系でもある。「光のスピードより速いものは存在しない」とか、「慣性の法則」とかいうのも現在の物理学でそう信じられていただけであり、新しい知見が得られればその理論は変わっていく。理論が先にあつて、現実があるのではなく、^⑤現実にある現象から学んで、科学の理論が補強、更新されていくのだ。

宇宙人が現実には地球にきているのなら、光の速度より早く空間を移動する手段が何かあるのかもしれないし、現在の生物学の常識ではとても知的生命体は生存できないと思われている、より近い惑星の環境下でも、実は地球型とは違う原理で動いている生命体が、高度な文明を発展させているのかもしれない。

だから科学的な態度とは、科学の權威を振りかざして、現在の科学理論に合わないものを頭ごなしに否定することではない。真に科学的な態度とは、安易に結論を出さない不安定な状態を、確信が持てる証拠が得られるまでは続けていくということである。「非科学的」と簡単に断罪して安心するのではなく、「わからない状態で頑張り続ける」とでもいえばいいのだろうか。それはある意味、宇宙人がいても仕方ないとあきらめることを意味しており、知らない間にマイクロチップを埋め込まれているのが、普通に、^⑥淡々と生きていくしかない。宇宙人を避けるために我々にできることと言えば「鞍馬山の頂上で「UFO」を踊らないこと」くらいなのである。

この世には「わからないこと」や「自分がコントロールできないこと」が多くあり、それもこの世界の重要な一部である。自分に見えてい^⑦るものだけで世界ができていく訳ではない。そういったこの世の「闇」のようなものに、あれもこれも「非科学的」と、ヒステリックにレッテル貼りをした所で現実は何も変わらない。それから逃げ切れることは、アラブの王様でも、^⑧ディープステートでもできないし、閣議決定しても無理である。その「非科学的」現象がどんなものであっても、堂々と受け入れることからしか、科学は始まらない。お化けがいても、^⑨IV神様がいても、別にいい。それで科学が終わるわけではない。もし神様が^⑩お姿を現すことがあれば、「その髪の毛を1本ください」とお願いし、DNA解析ができないのか、神様は非生物でDNAを持たないというのなら、せめて元素分析はどうなのか、と挑む人の営為が科学である。たとえ、その行為が神の目から見れば、いかに滑稽に映ろうとも、である。

(中屋敷均「わからない世界と向き合うために」より)

※出題に際して、一部漢字表記を平仮名に改めた。

*1 鞍馬山…京都市北部にある山。標高五七〇メートル。

*2 ピンク・レディー…一九七〇年代後半に爆発的なブームを巻き起こした女性二人組アイドル。

*3 「UFO」…一九七七年発売のピンク・レディーの大ヒット曲。歌とともに振り付けも大流行した。

*4 我々が…筆者が所属していた京都大学将棋部の部室は、モデルとなった研究会の部室の向かい側にあつた。

*5 国防総省…アメリカ合衆国の陸海空軍を統合した最高軍事機関。

*6 ネス湖のネッシー……イギリスのスコットランドのネス湖で目撃されたと思われる未確認動物。

*7 光年……天体間の距離を表す単位。一光年は光が一年間に進む距離で、約九兆四六〇〇億キロメートル。

*8 慣性の法則……すべての物体は他から力がはたらかない限り、静止または等速直線運動を続けるという法則。

*9 培養……細菌・細胞などを人工的に発育・増殖させること。

*10 デイープステート……政府や国家に影響を与えるとされる非公式な組織やネットワーク。「闇の政府」と言われる場合もある。

問一 —— ①とあるが、これまでUFOはどのように捉えられていたのか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、神秘的なもので、おごそかに取り上げなければならないと捉えられていた。

イ、人気アイドルと同じように、非現実的で夢のようなものと捉えられていた。

ウ、実在するか疑わしい存在で、真剣に向き合うものではないと捉えられていた。

エ、一部の若者たちが、面白半分に興味を持っているものだと捉えられていた。

問二 —— ②とはどのようなことを意味するか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、UFOに乗った地球外生命体の存在を、米国防総省が科学的に証明したということ。

イ、これまでのUFOの映像が偽物だということを、米国防総省が証明したということ。

ウ、「謎の空中現象」が実際に発生していることを、米国防総省が認めたということ。

エ、「謎の空中現象」は非科学的であるということを、米国防総省が認めたということ。

問三 —— ③とあるが、例えばどのようなことを想像するから気味が悪いと感じるのか。その想像の内容が書かれている一文をぬき出し、初めの五字を書きなさい。

問四 —— ④とあるが、『正義の味方』たる科学が「いかがわしきものたちをすべて退治」するとはどういうことか。本文から四十字以内でぬき出し、その初めと終わりの六字で答えなさい。

問五 — ⑤とあるが、「宇宙人が現実^{じやうじ}に地球に來ている」と仮定した

場合、そのことによつて「補強、更新され」た理論として例に挙げられてゐる事柄^{ことがら}を二つ、文中の語句を用いて答えなさい。ただし、一つは二十字前後、もう一つは四十字以上七十字以内で書くこと。

問六 — ⑥とあるが、ここではどういうことを言っているのか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、結局のところ現時点での有効な対応策^{さく}はない、ということ。

イ、これ以上多くの宇宙人を呼び寄せない、ということ。

ウ、宇宙人を楽^{らく}しませて危害を加えさせないようにする、ということ。

エ、仲間と愉快^{ゆかい}な時間を過ごすことで恐怖心^{きょうふしん}をやわらげる、ということ。

問七 — ⑦とあるが、「アラブの王様」「デュープステート」「閣議決

定」が表している事柄^{ことがら}として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、知恵や勇氣

イ、権力や財力

ウ、武器や兵力

エ、地位や名譽

問八 — ⑧とあるが、筆者は科学に向き合う姿勢について、どのよ

うに主張しているか。それが述べられている一文をぬき出し、その初めの五字を書きなさい。

問九 — Ⅰ、Ⅳについて、本文の内容と合っているものを次から一つ選びなさい。

ア、Ⅰの「ネス湖のネッシー」は、捏造やトリック映像のようなものという疑念を持たれていたものであつても、年月が経過すれば科学の対象となり得ることの例として挙げられている。

イ、Ⅱの「UFO研究会」を、学生時代の筆者は非科学的だと見下していたが、UFOが科学の対象となった今では彼らと交流しておけばよかったと悔^くやんでいるという話題として紹介している。

ウ、Ⅲの「大腸菌」に関して、研究者がフラスコの中の大腸菌を滅菌処理で全滅させられることが、高度な文明を持った宇宙人が地球人を滅亡^{めつぼう}させることは可能だということの裏付け^{うらづけ}とされている。

エ、Ⅳの「神様」の話題は、今の科学では説明できない事象であつても、それをひたむきに研究することが科学の発展に通じるのだという筆者の考えをわかりやすく説明する例となっている。

問十 本文の特徴の説明として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、軽妙な表現によって、抽象的な内容に親しみやすさが加えられている。

イ、本文中の「」は、全て筆者独自の言葉づかいをする際につけられている。

ウ、最初に筆者の結論が簡潔に述べられ、その後根拠や具体例が提示されている。

エ、筆者の主張に説得力を与えるために、専門用語やデータが多用されている。

問十一 〰〰〰 a 「あまた」の意味として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、まれに イ、たくさん

ウ、あやしげに エ、もつともらしく

問十二 〰〰〰とあるが、「自分に見えているものだけで世界ができている」と思っている状態を表すことわざとして最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、捕らぬ狸の皮算用

イ、猫の首に鈴を付ける

ウ、虎穴に入らずんば虎子を得ず

エ、井の中の蛙大海を知らず

二、この物語は沖縄の首里の士族（本土で言うところの武士）の娘でありながら父を病でなくし、母一人、子一人で貧しい暮らしをしているツタの一代記である。本文におけるツタは高等女学校（現代の女子中学校・高等学校に当たる）卒業間近である。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ツタはまた一方で、わたしは何者にもなれる、とも思っていた。

①*1 不遜と取られても仕方がないような妙な思い込みだが、そういうものでは決してない。ツタは図々しい野望や野心を胸に秘めていたわけではないし、果てしない可能性を無邪気に信じていたわけでもない。そんなおめでたい人間ではない。ツタの場合のそれは、もつとずっと観念的でもつと単純で、もつとひそやかなもの。

ごく簡単にいってしまえば、わたしはわたしだけれどわたしはツタにはかぎらない、ということだった。ツタではないわたしもわたしである、とツタは感じている。もしかしたら、わたしはツタを超えていけるのではないか。いや、わたしとは、そもそもツタを超えて存在しているのではないか。

わたしがわたしであるとはいったいどういうことなのか、幼い頃から何度も何度も発しつづけた問いの延長線上に、ある日ふいにひとつのヒントが現れ、②*2 ツタはそんな考えに囚われるようになったのだった。

きっかけは、筆名だった。

ツタがツタでない名を名乗るということ。

キヨ子の家で読んでいた女学生向けの雑誌に、読者が投稿できる和歌欄があった。そこには選者によって選ばれた全国津々浦々の少女たちの

和歌が毎号掲載されていた。ある時ツタはここへ投稿してみようと思いつたのである。自分もこの見知らぬ少女たちのようにここに載りたい。すでに掲載されている彼女たちへの競争心や嫉妬心からではない。むしろ、その逆。連帯感のようなものからだった。わたしもここにいるのよ、この沖縄で、この雑誌を毎月楽しみにしているのよ。そんな気持ちを伝えたかったのだった。この和歌欄をわたしはいつも読んでいた。あなたの和歌を知っている。だからあなたのことも知っている。あなたのことも、あなたのことも、あなたのことも。みんなのことを知っている。知っているわたしがここにいるのだと、③*3 ツタはつまり狼煙をあげるように投稿したのだった。

その時、本名で送ってはなにか差し障りがあるかもしれないと、ツタは気まぐれに筆名にしようと思いつく。なるべく自分の名前とかけ離れた名前にしておこう。友達の誰ともまったく似ていない名前にしなくては。筆名的筆名を。④*4 匿名的筆名を。

そうやって考えた末に決めた沢田正子という名は、⑤*5 大和を意識しすぎてやや凡庸になつてしまったきらいはあったが、その名とともに初めて送った和歌が雑誌に掲載されたとき——三等ながら運良く入選した——、ツタは昂奮し、⑥*6 これまで経験したことのない、強い解放感を味わったのだった。

これはわたし。

これもわたし。

ツタではないわたし。

ツタから自由になったわたし。

A その名を見つめ、ツタは笑った。入選して掲載されたことのもちろんうれしかったが、それよりも、自分が別人のような顔でそこ

にいるということがなにより刺激的^{しげき}だったのだ。

だれだ、これは！

そう自問し、ツタは思う。

わたしだ！

ツタはくくくと笑う。

沢田正子。

これがわたしか？

これがわたしだ。

紙の上に突如^{とつじょ}現れたわたし。新しいわたし。

このわたしは紙の上にしかない。

④ ということとはつまり、新しいわたしは紙の上にいる！

たかだか名前ひとつで、これほど気持ちが沸^わき立つものだと、ツタは知らなかった。新鮮^{しんせん}な驚^{おどろ}きであり、発見だった。それゆえツタは昂奮^{きようふん}する。これはどういうことなのだろうとツタは考える。わたしはわたしを作れるということか。⑤ わたしがわたしを生きるということはわたしが

わたしを作るといふことなのか。

窮^{きうくつ}屈^{くつ}に思えていた世界が、ちがう容貌^{*8ようぼう}を見せ始めた。

B 高

まる気持ちを抑^{おさ}えられない。

ツタはその後断続的に投稿しつづけた。和歌はわりあい得意だったから、作ろうと思えばいくらでも作れる。駄作^{ださく}が大半ではあるものの、たまにちよつと気に入ったものが出来ると躊躇^{ためら}わず投稿した。

⑥ 入選したこともあったし、落選したこともあった。落選しても、消沈^{しょうちん}

することはまったくなかった。別の人が選ばれていても僻^{ひが}みもしないし羨^{うらや}みもしない。なぜってツタよりうまい和歌が選ばれているだけなのだから。遊び半分で作った和歌がそうそう何度も入選するはずがないとツ

タはよく承知していた。もつともうまくなるためにはそれなりに技術を学ばねばならない。だが、ツタにはそこまでする気がない。我流^{がりゅう}で一向にかまわない。それでじゅうぶん楽しめる。いや、そうでなければ楽しくないとすら、ツタは思っていた。まずは楽しければそれでいいのだ。

そうしてツタはついに、一つの名前とめぐりあった。

千紗子^{ちさこ}。

ちさこ、ちさこ。どこからそんな声が聞こえたのだったろう。ちさこ、

ちさこ、それはツタを呼ぶ声のようでもあった。はて、とツタは

C 。ちさこことはなんだろう？ ちさこことはだれだろう？

ちさこ、ちさこ。それにしても、いい響きだ。かわいらしく、品があつて、そのくせ、ぴりりとわずかに冷たい色調がある。そこがまたいい。周囲にこんな名の人はいないが、なぜかわたしはこの名を知っているような気がする。いいや、それどころか、わたしはいつだかこのような名で呼ばれていた気がしてならない。

むろん、そんなものはたんなる錯覚^{さくかく}、妄想^{もうそう}の産物にすぎないのではあるが、そうはいっても、簡単に否定しがたい、これまで一度も感じたことのない深いなじみ、深い愛着^{あいしやく}をツタは感じる。

ひょっとして、ちさこことはわたしではないか？ と、ツタは思う。

つぶやけばつぶやくほど、親しみを感じるこの名は、もしやわたしの名ではないか？

どうしてもそんな気持ちから逃れられなかった。抗^{あらが}えない。

ならばいつそ、これを新しい筆名にしようとツタは思った。

さて、どんな漢字をあてるべきだろう？ 知左子か？ 智沙子か？

千紗子という字にたどりつくまで少し時間がかかった。治砂子と書い

てみたり、千早子と書いてみたり、いろいろな字をあてはめてみた。

⑦ ようやく千紗子という字を見つけた時、ツタは長らく離ればなれになつていた遠くの魂がツタの身の裡に呼び戻されたように感じられてならなかった。しつくりと落ち着いた、なだらかな心地がする。まさしくぴったりと、なんの齟齬も争いもなく、千紗子がツタと一致した瞬間だった。

⑧ そうして、いくらか恐ろしいような気持ちにもなったのだった。

これはもはや、名前だけの問題ではないのではないか。なにかもつと大きなことをツタに示唆しているのではないか。

それはなんだろう。

それはつまり、わたしはツタとして生きるだけではなく、この世という舞台で、どのようなにも生きられると、そう、だから、わたしは、ツタは、ツタでありつつもツタではなく、千紗子であり、千紗子でありつつも千紗子でなく、なにかそんな、自在な存在であると、この名はツタに教えてくれているのではあるまいか。

もちろん、この時のツタがここまで自覚的に、くだくだしく考えていたわけではない。もつと無自覚に、もつとぼんやりと、じくじく身震いするように正体のわからぬものがツタの心の奥底からあふれでてくるのを感じていたに過ぎない。そのうえで「わたしは何者にもなれる」とぼんやり思うわけなのだった。

(大島真寿美「ツタよ、ツタ」より)

*1 不遜…思い上がり。自分の能力以上のことができると思うこと。

*2 筆名…ひつめい。作品を発表するときに使う名前。ペンネーム。

*3 狼煙…いくさの時に敵襲などを味方に知らせるための煙。ここでは合図することのたとえ。

*4 匿名…実名をかくして別な名を名乗ること。

*5 大和…やまと。当時、沖縄の人から見た本土の呼び名。

*6 凡庸…すぐれた点がなく平凡なこと。

*7 昂奮…「興奮」と同じ。

*8 容貌…すがた・かたち。

*9 裡…「内」と同じ。

*10 齟齬…くいちがうこと。

*11 示唆…それとなく指し示すこと。

問一 — ①とあるが、なぜ「妙な」と表現しているのか。理由として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、どのようなことにも耐えられる自信を持つて思うように思われるから。

イ、何かにになりたいが何でもよいという考え方は具体的ではないと思われるから。

ウ、人を押しのけても自分のしたいようにするという気持ちがあると思われるから。

エ、自分の将来についてどんな道でも選べると根拠もなく信じていると思われるから。

問二 ― ②とあるが、「そんな考え」とはどんな考えか。「という考え」につながるように文中から二十五字以内でぬき出しなさい。

問三 ― ③とあるが、「狼煙を上げるように投稿した」とはどういうことか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、読者投稿を楽しむ仲間たちに自分と仲良くするようにうながすために和歌を投稿したということ。

イ、和歌欄を愛読している自分の存在を仲間たちに知ってもらうために和歌を投稿したということ。

ウ、満たされない世の中を自分と一緒に^{いっしょ}変える仲間を見つけるために和歌を投稿したということ。

エ、自分は和歌の才能に恵^{めぐ}まれているということを全国の仲間に示すために和歌を投稿したということ。

問四 ― ④とあるが、どういうことを言っているのか。「新しいわたし」とは何かを具体的に示したうえで二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問五 ― ⑤とあるが、ここでツタはどのようなことを考えているのか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、自分が考えたものによって、自分はどのようにでも変化することができ、変化したものも自分である。

イ、生きることは自分を探すことであり、今までとは違う^{ちが}体験の中から自分を探し出せるかもしれない。

ウ、自分らしく生きていくためには、自分を今までよりもっと成長させてゆかなければならない。

エ、自分がツタであることは変わらないが、今よりもすぐれた存在になることで自分の幅^{はば}が広がっていく。

問六 ― ⑥とあるが、なぜか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、選ばれているのは自分よりうまい和歌であり、才能がないことはわかっていたことだから。

イ、和歌が評価されることよりも、雑誌に投稿することそのものを楽しいと感じているから。

ウ、いずれうまくなると思うが、技術をちゃんと学んだ人にはかなわないと思っているから。

エ、一度入選してしまえば、他のものが評価されなくても実力があれることは証明されているから。

問七 ――⑦とあるが、この表現からわかることとして最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、ツタが新しい名前の漢字を決めたことを、自分なりに納得させようと心の奥深くで思ったということ。

イ、ツタが自分に愛着のある漢字をあてたことで、忘れていた名前を思い出させる筆名になったということ。

ウ、ツタが気に入った漢字が見つかったことで、自分の新しい名だという深いなじみを感じられたということ。

エ、ツタが何度も漢字をあてなおすことで、忘れていていた本当の自分に見合う名前に出会ったということ。

問八 ――⑧とあるが、ツタは「千紗子」という名を得たことで、どのようなことを感じているのか。解答欄に合うように三十字以上四十文字以内で説明しなさい。

問九 この文章の中で、ツタはどんな人物としてえがかれているか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、自分の生まれを後ろめたく思っており、自分のことがあまり好きではない人物。

イ、よい作品を作ろうという向上心を持って投稿を楽しんでいる、ませた人物。

ウ、無邪気な性格で、人からどう思われるか気にしない単純でがんこな人物。

エ、自分の気持ちに正直であり、漠然と自分のあり方について考えている人物。

問十 A・Bに入るのに最も適切なものを次からそれぞれ一つずつ選びなさい。

ア、わくわくと イ、まざまざと ウ、しげしげと
エ、めらめらと オ、ぐずぐずと

問十一 Cに入るのに最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、目を背けた イ、かぶりを振った
ウ、耳をそばだてた エ、首を傾げた

三、次の漢字に関する問いに答えなさい。

(1) 次の ☐ には同じ音の漢字が入ります。①～③の ☐ ※ の漢字をそれぞれ答えなさい。

① コンピュータは ☐ 密機械だ。
この ☐ ※ 品はよくできている。
台風が ☐ 力を増した。

② ☐ ※ 毛をつむいで糸にする。
☐ 楽は歌詞が聞き取れない。
しばらく ☐ 子見しよう。

③ 不平等な ☐ 約は結ぶべきでない。
賞 ☐ ※ をもらうとうれしい。
あいさつをしないのは非 ☐ 識だ。

(2) 次の——線部の漢字の中で、他の三つと異なる読みのもを一つ選び記号で答え、その読みを書きなさい。

① ア、美しい景色
イ、明るい色調
ウ、気色ばむ
エ、色眼鏡で見る

② ア、赤道直下
イ、赤字路線
ウ、赤面の至り
エ、赤十字社

[illegible][illegible]

受験番号

番

氏名

一 問一

ウ

問二
ウ

問三

僕も

知らな

問四

科学の權威を

否定すること

問五

二つ目

光の速度より早く空間を移動する手段が何かある

二つ目 現在の生物学の常識では知的生命体が生存できない

二つ目

と思われ、環境下でも、地球型とは違う原理で動いている

る生命体が高度な文明を発展させている

る生命体が高度な文明を発展させている

問六

ア

問七

イ

問八

真に科学的

問九

エ

問十

ア

問十二

イ

問十二

エ

二 問一

エ

問二

わたしはわたしだけれどわたしはリタにはかぎらない

という考え

問三

イ

問四

沢田正子という名前が雑誌に掲載されていること

問五

ア

問六

イ

問七

ウ

問八

リタとして生きるだけれどなく、自在な存在としてどのよ

問九

うにでも生きられる

と感じている。

問十

エ

問十一

Bア

問十二

エ

三 問一

製

② 羊

③ 状

(2) ①

エ

読み

い

②

イ

読み

あか

受験番号

番

氏名